

第4教育ブロック

## 検査結果の正しい理解と活用

～ブロック研究発表会を受けて～

令和5年2月24日（金）

大阪市立矢田中学校 塚本一清  
大阪市立阿倍野中学校 浦野莉佳

4

### 講演内容

- 障がい者手帳について
- 検査とは？
- 何のためにするのか  
どんなものがあるのか  
(WISC-IVと新版K式発達検査を中心)
- まとめ

2

### 本日の内容

#### I 実践にあたって

確かな生徒理解のために～検査結果の正しい理解と活用～

#### II 実践内容

- 検査結果の活用と実践
  - (1) 矢田中学校の実践内容
    - ・心理検査などの科学的根拠に基づいた本校の特別支援教育の体制づくり
    - ・まとめ
  - (2) 阿倍野中学校の実践内容
    - ・Iさんの事例
    - ・まとめ

5

### 障がい者手帳について

身体障がい者	知的障がい者	精神障がい者	発達障がい者
身体障害者 福祉法	知的障害者 福祉法	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律	発達障害者支援法
身体の機能に一定以上の障がいがあると認められた人 視覚や聴覚・平衡機能、音声・言語・そしゃくなど	知能指数(IQ)が低め(75未満)で、日常生活への支障があり、教育・就労・医療等の支援が必要とされる人	精神疾患があり、長期にわたり日常生活または社会生活への制約がある人 統合失調症やてんかん、器質性精神障害(高次脳機能障害を含む)など	
身体障がい者手帳 (身体障害者福祉法15条)	療育手帳 (療育手帳制度について)	精神障がい者保健福祉手帳 (精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第45条)	

3

#### I 実践にあたって

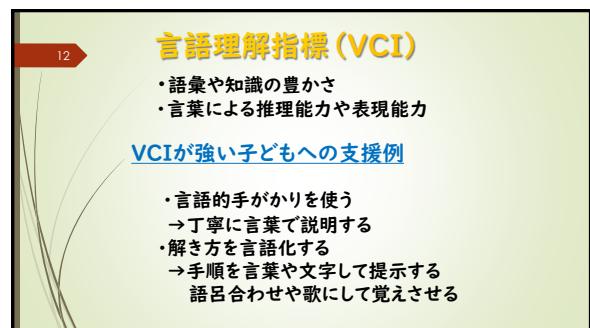
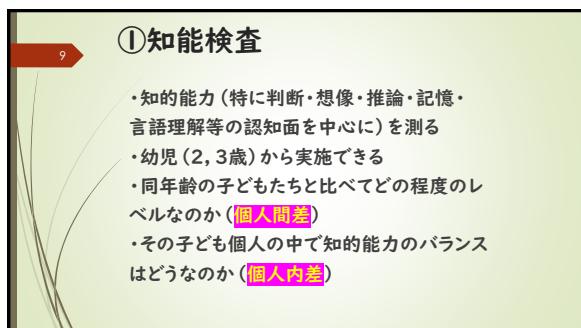
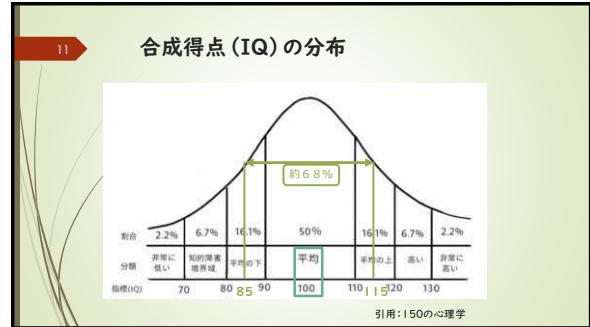
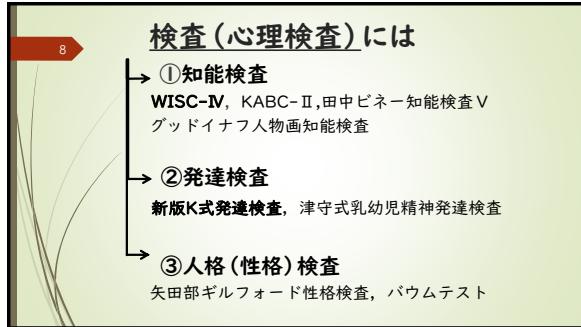
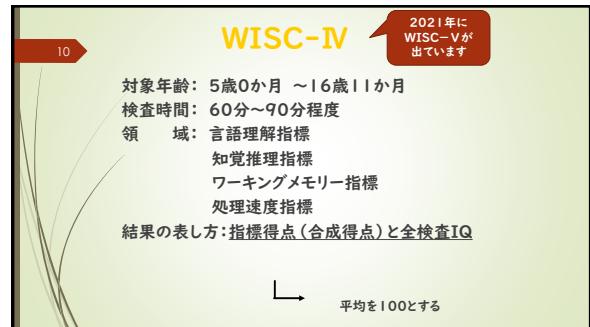
#### 確かな生徒理解のために～検査結果の正しい理解と活用～

の講演をお聴きして

6

### 障がい者手帳を取得すると

- 様々な割引が受けられる  
(交通機関、博物館や美術館などの公共施設や遊園地、映画館などの娯楽施設等)
- 就労支援が受けられる  
(就労移行支援施設や就労継続支援施設等への通所、障害を配慮された環境で仕事ができる障害者雇用枠での就職、ジョブコーチの派遣)
- 税金の控除が受けられる  
(所得税や自動車税等)



## 13 知覚推理指標 (PRI)

- ・視覚的な情報をもとに推理したり、予測したりする能力
- ・視覚的な情報を処理する能力 (空間処理能力)

### PRIが強い子どもへの支援例

- ・視覚的手がかりを使う  
→図やイラストでわかりやすくする
- ・具体的な操作を重視する  
→本物との触れ合いを大切にする
- ・様々な体験的活動を取り入れる

## 16 ②発達検査

- ・発達全般 (認知面だけでなく、運動や身辺自立、社会性など) を測る
- ・乳児 (0歳) から実施できる
- ・実際の年齢よりも発達が進んでいるか、遅れているか

## 14 ワーキングメモリー指標 (WMI)

- ・新たな情報を記憶する能力
- ・情報を少しの間、記憶にとどめて、それを使って処理する能力

### WMIが強い子どもへの支援例

- ・短期記憶の強さと集中力の高さを活用する  
→メリハリをつけて活動させる

## 17 新版K式発達検査2001

対象年齢: 0歳0か月～成人

検査時間: 40～60分程度

測定領域: 姿勢・運動

認知・適応

言語・社会

全領域

結果の表し方: 発達年齢 (DA) と発達指數 (DQ)

2020年に  
新版K式発達検査  
2020が  
出ています

## 15 処理速度指標 (PSI)

- ・視覚的な情報の処理するスピードや能力 (筆記能力や事務処理能力)

### PSIが強い子どもへの支援例

- ・視覚、運動の協応 (目と手を関連させた動作) が得意であることを活用する  
→単純作業をさせる

## 18 発達年齢 (DA)

定型の発達の子どもでいえば何歳ぐらいの発達レベルか

## 発達指數 (DQ)

発達年齢と生活年齢 (実際の年齢) の比率  
「 $発達年齢 ÷ 生活年齢 \times 100$ 」

## 全領域

「姿勢・運動」「認知・適応」「言語・社会」の三領域を合わせて、全体の発達はどうかを表す

19

**まとめ**

**姿勢・運動 (P-M)**  
粗大運動を中心とする運動に要する身体発達

**認知・適応 (C-A)**  
手先の巧緻性や視知覚の力などの視覚的な処理と操作の力

**言語・理解 (L-S)**  
言葉のほかに大小や長短などの抽象的な概念や数概念を含む対人交流の力

22

**まとめ**

**検査をするということは…**

子どもの今の状態を知る  
↓  
検査結果、検査からわかった支援方法を本人・保護者・教員等、みんなで情報共有する  
↓  
サポート方法をみんなで考える  
長所を生かし、短所をフォローする  
↓  
気づきや納得、安心につなげる

20

**まとめ**

**検査をするということは…**

**障がい特性**  
↓  
障がいを予測できるとは限らない

検査結果は予測できる  
↑  
検査結果

23

**II 実践内容**

**検査結果の活用と実践**

21

**まとめ**

**検査をするということは…**

**ASD、ADHD**  
→行動特性で診断する

**LD ( 学習障がい )**  
→IQ+学力の情報が必要

**MR ( 発達遅滞 )**  
→IQ+適応行動能力が必要

24

○矢田中学校の実践報告○

心理検査の結果と本校の実態をふまえた  
子ども理解への取り組みについて

25

## インクルーシブ教育委員会 (校内委員会)

- 生徒の情報交換
- 指導・支援の手立ての確認
- 障がい理解教育についての企画・立案

26

## Tさんについて

- 療育手帳B2
- ・自閉スペクトラム症 (ASD) ・AD/HD ・吃音
  - ・現在中学2年生
  - ・特別支援学級在籍 数学・英語を抽出。  
その他の授業は、サポートを受けながら通常学級で学習をしている。

26

## 特別支援教育コーディネーターとしての取り組み

- 障がい理解研修
- 個別の教育支援計画・個別の指導計画の検討
- SCやSSWとの連携
- 新入生入学前相談
- スポーツフェスタ(スポーツ大会)への取り組み
- 府立支援学校の支援相談 ①ケース相談 ②研修講師依頼
- 特別支援担当者以外の教員の相談

29

## Tさんの実態

### 〈学習面〉

- ノートやプリントに書き写すことが苦手で、板書に時間がかかる。
- 漢字が苦手で、ひらがなで書くことが多い。マス目に沿って文字を書くことが難しい。
- 一斉指示だと指示が伝わりにくい。
- 計算の問い合わせには、すぐに答えることができる。
- 英語のリスニングは得意。
- 丸九は覚えている。

27

## Tさんの事例

検査結果を用いた支援方法

30

## Tさんの実態

### 〈行動面〉

- 話を最後まで集中して聞けず、勘違いからその場に応じた適切な行動がとれないことがある。
- 優しく、お話しが好きである。自分の興味のある話はするが、相手にも合わせた会話ができる。
- 興味があることには集中でき、記憶力も高い。探求心がある。
- 自分に自信がなく、自己否定してしまうことがある。
- 他者からの声掛けに対して、素直になれなかったり、反発してしまったりすることがある。
- こだわりが強く、思い通りにいかないとイララしてしまう。

WISC-IVの結果		
全検査IQ(FSIQ)	60	非常に低い
言語理解(VCI)	86	平均の下
知覚推理(PRI)	56	非常に低い
ワーキングメモリー(WMI)	71	低い (境界域)
処理速度(PSI)	58	非常に低い

ただし、最も高い言語理解(86)と最も低い知覚推理(56)の間の差が大きいため、全検査IQ(60)だけではその子どもの全般的な発達水準は判断できない。

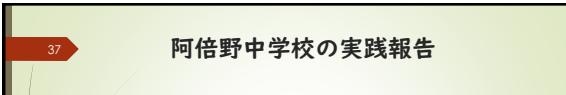
WISC-IVの結果と行動観察から		
全検査IQ(FSIQ)	60	■ 自分に自信がなく、自己否定してしまうことがある。
言語理解(VCI)	86	■ 他者からの声掛けに対して、素直になれなかったり、反発してしまうことがある。
知覚推理(PRI)	56	→ 本人の能力の凸凹（言語理解の高さと処理速度の低さ）から話すことは得意だが処理能力が低い（作業が遅くミスが多い）ことで、急げと捉えられたり、ミスを叱られた経験も多い？ 自己肯定感が下がっている？
ワーキングメモリー(WMI)	71	■ こだわりが強く、思い通りにいかないとイララしてしまう。
処理速度(PSI)	58	→ ASDの特性？（独特なこだわり） ASDの特性？（社会性の弱さ？コミュニケーションの弱さ？） 知覚推理の弱さ？（視覚的な情報把握が苦手）

WISC-IVの結果からわかること		
全検査IQ(FSIQ)	60	■ ノートやプリントに書き写すことが苦手で、板書に時間がかかる。
言語理解(VCI)	86	■ 漢字が苦手で、ひらがなで書くことが多い。マス目に沿って文字を書くことが難しい。
知覚推理(PRI)	56	→ 知覚推理（視覚情報で考える力）の弱さ、 処理速度（目と手の協応）の弱さ
ワーキングメモリー(WMI)	71	■ 一斉指示だと指示が伝わりにくい。 ■ 話を最後まで集中して聞けず、勘違いからその場に応じた適切な行動がとれないことがある。 → 言語理解が高い（個人内差では）ことから、聽覚情報優位だが、下位検査の指標得点から長い文章を理解する力や、複雑な指示は、負荷がかかり適切に理解することが難しい。
処理速度(PSI)	58	教師の見立てによる困り感が、結果にもでている！！

WISC-IVの結果と行動観察から		
「弱み」を「強み」でカバー		得意なこと・プラスになりそうなこと
		■ 興味があることには集中でき、記憶力も高い。探求心がある。
		■ 優しく、おしゃべりが好きである。自分の興味のある話はするが、相手にも合わせた会話ができる。
		■ 自分に自信がなく、自己否定してしまうことがある。
		→ → 自信がもてれば…？
手立て		■ 他者からの声掛けに対して、素直になれなかったり、反発してしまうことがある。
		→ → 本人なりの思いがある？
		WISC-IVの結果と行動観察より推測する
		■ 本人と相談しながら、本人が頑張ってやり切れるように作業量や方法を調整する。 ・頑張ったことや、達成できたことは積極的に褒める。 ・得意なことや知り得た知識を、成果物等で表現することで、他者に発信できる機会を設ける。 ・本人が興味をもてるようなアプローチや、体験学習の機会をつくる。 ・本人の思いや要望を丁寧に聞き取ったり、様々な人との囲むりの機会を設けたりする。 ・SSTや、コミック会話をなど。

WISC-IVの結果からわかること		
33		「弱み」を「強み」でカバー
得意なこと		
計算の問い合わせには、すぐに答えることができる。		
英語のリスニングは得意。		
丸九は覚えている。		
興味があることには集中でき、記憶力も高い。探求心がある。		
一斉指示だと指示が伝わりにくい。 → 個別での指示だと伝わりやすい！		
手立て		知覚推理（視覚情報で考える力）の弱さ、処理速度（目と手の協応）の弱さ
		→ 言語によるアプローチを中心に行う。
		・分かりやすく短い文の言語補足を付け加える。着目するポイントを端的に提示する。
		・解き方や漢字の構成などを、語呂合わせや歌にして覚えさせる。
		・板書や書き取りなどの作業は量と時間量を調節する。
		・視覚情報はシンプルにし、内容を理解させてからノートを取らせるようにする。
		・罫線やメモりつきのノート、リーディングルーラーを使用する。

まとめ		
36		エビデンスのある検査結果があることで、 ⇒学校での適切な支援方法や対応につながった。
		⇒他の教員にも生徒の特性が理解されやすくなった。
		⇒教員の見立てでの答え合わせにもなり、自信を持って支援を進められるようになった。
		検査結果だけではなく、日々の行動観察からの気づきと合わせて生徒の実態を把握することが大切！！
		的確なアセスメントにより生徒に必要な支援内容や方法が明らかになり、具体的な手立てにつながることができる。
		学校全体としての子ども理解が深まる！！



# 37 阿倍野中学校の実践報告

## ▶ Iさんの事例

40

## 特別支援学級在籍生徒の授業の様子まとめ

- ▶ 毎学期、各教科の先生から一人ひとりの授業の様子をまとめてもらい、共有している。
- ▶ 入り込みのない授業の様子がよく分かり、入り込みすべきかどうかの検討を行いやい。

38

## 特別支援教育委員会 (校内委員会)

- ▶ 特別支援学級在籍生徒の情報交換
- ▶ 特別支援対象生徒の情報共有・交換  
→何らかのサポートがあった方が過ごしやすい生徒の抽出を行っている
- ▶ 指導・支援の手立ての確認

39

## 視覚支援学校からの巡回相談

- ▶ 視覚支援学校の先生による巡回相談  
(月1回程度)
- ▶ 視覚支援学校の先生による授業を見学  
→授業の教材や声掛けの仕方など教わる  
→保護者の方への共有  
(撮影した動画をもとに)

Iさんの事例

検査結果を用いた支援方法

43

### Iさんの実態

- ・現在中学3年生
- ・入学時から特別支援学級在籍
- ・何事に対しても一生懸命
- ・不安感が強い
- ・点数に対するこだわりがある
- ・集団行動が苦手
- ・限られた時間の中で作業をすることが苦手である
- ・英 抽出、美、体入り込み

46

### WISC-IV

	10歳1か月	14歳4か月	
全検査	79	76	-3
言語理解	76	78	+2
知覚推理	102	95	-7
ワーキングメモリー	65	73	+8
処理速度	86	70	-16

44

### Iさんの診断状況

- ・自閉スペクトラム症
- ・ADHD
- ・療育手帳B2所持

47

### Iさんへの支援方法①

- 入学式前に自分の歩くルートを実際に歩いて安心感を得る
- 予定は先にプリントで配布し確認しておく
- 定期テストなどの宿題の範囲も先に知らせておく  
 ■(それでも本人のペースでは間に合わなさそうなときには、  
 ■あらかじめ課題の量を減らした状態で渡す)
- やるべきことを細かく分け、一つずつ時間をかけて取り組む

45

### Iさんの入学時の実態

- ・自分に対するハーダルが高い
- ・失敗や間違いを許せない
- ・他人からのアドバイスを「怒られた」と捉えてしまう
- ・急な予定変更に対応することが苦手
- ・何事に対しても一生懸命
- ・不安感が強い
- ・点数に対するこだわりが強い
- ・集団行動が苦手
- ・限られた時間の中で作業をすることが苦手である

48

### 新版K式発達検査2001(12歳2か月)

- ・全領域 DA(発達年齢) 8:2 (8歳2か月)  
 DQ(発達指數) 67 (平均: 100)
- CA(生活年齢) 12:2 (12歳2か月)
- ・各領域・下位検査結果  
 姿勢・運動領域 \*\*\* (上限に達している)
- 認知・適応領域 DA(発達年齢) 9:9 (9歳9か月)  
 DQ(発達指數) 80 (平均: 100)
- 言語・社会領域 DA(発達年齢) 7:6 (7歳6か月)  
 DQ(発達指數) 62 (平均: 100)

## 49 本人の思い

- 周りと交流したいけれど、自分の気持ちの状態によってイライラしてしまうこともあるので、一人でいることが多い。
- でも本当は、ゲームの話やポケモンの話などを周りとしたい気持ちがある。

## 52 Iさんの成長点

- 自分に対するハードルを徐々に下げることができている。
- 音楽や体育の実技のテストを集団の中で受けられるようになった。
- 他人からのアドバイスを、落ち着いて聞くことができるようになった。
- 作業が時間内に終わらなくとも、落ち着いて対応することができる。
- 嫌なことがあったことや、イライラしてしまったということを、自ら教員に伝え、自分の気持ちを自分で整理することができるようになった。

## 50 Iさんへの支援方法②

- 教員との交流
- 特別支援学級の生徒との交流
- 教室の生徒との交流

## 53 検査結果を通して

- WISCの結果から見ると、年齢が上がるとともに、能力のばらつきは少し落ちていた。  
Iさんのこの3年間での成長はすごく大きく、これから社会生活に役立つところばかりである。
- 検査結果の数値だけでは測れないことがある。
- 環境が変わることで本人の過ごしやすさが変わるということがよく分かった。

## 51 Iさんへの支援方法③

- 実技のテストは、皆とは違うタイミングで、一人でテストを行った。
- 授業中、落ち着かない様子であれば、クールダウンしにいく約束を事前にした。
- テスト返却は、放課後支援学級で行った。

ご清聴  
ありがとうございました。

